

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字石浜字笹原28番地の1		
自己評価作成日	令和 元年 1月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2395700111-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として地域のイベントなどに参加し利用者様が住み慣れた町で生き生きと過ごせる環境作りに務めている。特に今年度は法人が主体となり遠足を計画したり地域へ向けての祭りを開催しておりより地域とのかかわりを持てる環境を目指している。また医療面では法人母体のクリニックが徒歩圏内にあることを生かし密に連絡を取ることでより手厚い医療を受けることができる環境を整備している。当事業所としてはご家族様と密接な関係をきづき、利用者様・ご家族様ともに安心して過ごせる施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の運営母体が医療法人であり、医療面での連携が取れることは、利用者の安心した暮らしを支える要素の一つとなっている。地域との交流も法人全体で力を入れており、ボランティアの協力も得ながらと地域の方も気軽に参加できるお祭りを開催している。石浜地区の盆踊りに利用者が参加し、入居前に住んでいた地区で開催される行事に参加できて満足できたという声があがっている。利用者・家族と良い関係性を築くため、いろいろな状況をオープンにして信頼して何でも気軽に話してもらえる事業所を目指している。職員一人ひとりが毎月目標をもって勤務し、より良いサービスを提供できることを常に意識しながら業務に取り組んでいる。「掃除を頑張る」、「いつも元気である」など職員のそれぞれの心がけにより、雰囲気の良い事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い徐々に浸透してきている。去年に引き続き職員個々に目標を立て実践してきており成果は個人差はあるものの去年と比べおおむね改善できている。	理念は玄関に掲示し、いつでも目に留まるようにしている。日常のケアが理念に沿ったものになるよう、新しい職員や外国人職員には理念の意味をわかりやすく伝え、個別に話をして実践できるよう努めている。	利用者に提供するサービスの質を担保するためにも、職員が理念を十分に理解することは重要である。今後も前向きな取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア様に来所していただいたり祭りや店に出かける等交流の機会を増やしている。また学生の職場体験にも参加している。	法人で開催するお祭りには自治会長が宣伝に協力してくれたり、民生委員からも情報提供があったり、周囲の方の力を借りながら地域交流をしている。利用者の孫がボランティアとして来てくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は区長様・民生児童委員様等に協力を呼びかけ町にも協力していただき法人として地域交流祭を開催して。交流の場を設け認知症の方に対する理解を求める場を提供できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の実績等を紹介するのはもちろん、地域の方への相互援助の関係を築くための話し合いを行っている。	地域包括支援センター、区長、民生委員が出席しており、事業所の課題だけでなく、地域の課題についても話合っている。防災や地域交流についても会議で話をする事で地域との連携がとりやすくなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設に関する変更事項等の書類提出や施設の実情を書類にまとめ職員へ反映しサービス内容の向上を目指している。	町の福祉課には手続等の不明点は気軽に聞ける関係ができており、電子掲示板から研修の情報が得られるので必要なものには参加している。地域包括支援センターとは連携して地域福祉の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束に関して禁止としている。またH30年度の改正により3か月に1度の身体拘束防止委員会として勉強会の実施をしている。	自覚のない身体拘束をしないよう、重点課題として理解を深めるよう努めており、今後も意識改善の勉強会等を継続していく。スピーチロックが生じないよう、日ごろから余裕の持てる業務ができるような取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間を通し虐待について勉強会を行っている。又、言葉遣いでの虐待にも視点をおき日々の言葉遣いにも注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度を利用している方がおり、ほとんどの職員はある程度は把握しているが、正確に理解している職員は少ないのが現状であり年に1度は勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については管理者・介護支援専門員から十分な説明を行っている。契約時にはご家族様へ質問事項はないか促し契約後もこちらから不安点・不明点などの有無を確認し相談しやすい環境を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から意見をいただいた際は管理者・介護支援専門員や看護師介護士を交え必要であれば担当者会議を開き対応を行っている。複数あれば優先順位を設け順に行っている。	意見箱を設置しているが、家族からは直接要望等を聞けるような関係性を築いている。家族から出される意見はケアに関することが多いが、職員で共有して改善策を検討して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的には月に一度委員会を開催した際に意見・提案を行う場を設けている。それ以外では連絡帳等の書面を使い情報のやりとりを行えるばを設け情報の収集や発信の場を設けている。	職員からは積極的に意見が出され、管理者はそれを否定せず、対応ができないことに関しては理由をしっかりと伝えている。管理者が職員と個別に話をするときにも意見を聞いて、運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等を代表者に伝え評価したうえで給与に反映している。労働時間に関しては相手の意見を聞き平等に対応している。職場環境については情報収集を常に行い優先度の高いものから順に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関して一覧表を作成しみんなが観覧できるように掲示している。提案はするもののあくまで個人の意思を尊重しながら研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内では月に一回勉強会を開催し意見交換の場として活用している。法人内の他事業所とは不定期ではあるが、講習会を合同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との関係づくりは特に重視しており事前にご家族様や担当のケアマネージャーから既往歴等の情報収集を行ってから本人様と面談し不信感や猜疑心を刺激しないように注意を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行う前段階で十分に施設とサービス内容を行っている。その際に不安や困っていることに対して慶弔に努め不安な気持ちを解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLが下がったりと日ごろ状態が変わってくる中でケアマネ等との連携をとり、現在行っているサービスと現状の状態を比較し適した対応を考えご家族様に提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	排泄介助、入浴介助、食事介助のみではなく、和気あいあいとした環境を作っている。利用者様自身がこちらに寄り添ってくださる環境作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時、在宅時の生活の聞き取りを行いご家族様と一緒に方針を決め自宅と過ごし方の差が少なくなるように努めている。その後の経過も密に伝えご家族様も一緒にサポートできる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に相談し、なじみのある習慣や外出レク等でなじみの場所へ訪れる等は行っている。また友人等の面会もある。	友人が訪問した際には、部屋で楽しく過ごしてもらえるようにしている。初詣には地元の神社へ行き、懐かしい思い出を職員に語ってくれることもある。家族の協力も得ながら趣味や通信支援を通じ関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりで性格が違うが自立されている方同士での交流できるように配慮している。一方で介助が必要な方にはなるべく職員が間に入り利用者同士の交流の手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的にはこちらからは連絡することはなるべく避けている。本人様が心配なく次の場所へ行けるようにケアマネを中心として相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの希望に関してはなるべく聞くようにはしている。本人様がくらしやすい環境を作るように心かけている。	日常の関わりの中で利用者との会話を大切にしてい意向を確認し、介護記録に残して情報共有している。スーパーで買い物をしたいという希望を叶え、可能なことは実現させていくよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分で意思表示ができない方に関しては今までの生い立ちや性格を考え本人様が暮らしやすい安心できる環境作りに務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様によって過ごし方が違う本人様が穏やかに暮らしていただくために生活リズムをその方に合わせている。タイムスケジュールの中での活動についてはADL等を考え体操やレクの参加をうながすことはある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態を考えうえで、ケアマネのみではなく職員全体で情報を収集し、また、ご家族様の意見も反映を行っている。	モニタリングは毎月行い、介護計画は3ヶ月ごとに見直しをしている。利用者や家族の意見、介護記録等を反映して、利用者がより良い生活が送れるように検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを用いて記録を行っている。日々の様子については実際に職員が閲覧できるようになっており情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスのみではなく、その都度対応できるサービスを利用者様、ご家族様を中心に話し合い新しいサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのつながりをもつため地域行事に関しては年に何回か参加させていただ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の方に顔をさせていただくことで救急時に対応できたり、利用者様も地域と触れあうことで心が安定した状態になるのではないかと考えている。	協力医は往診日以外、夜間帯も対応が可能で、職員にも看護師がいるため、適切な医療が受けられるような体制を整えている。外来受診は家族の協力を得ながら行っており、利用者の状態の情報共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの目では差がありますが、介護職員しか見れない視点での気づきはあると思うので変化があった場合は看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の共有はもちろん、月に2回以上の面会を行っている。面会以外に病院先に連絡を取り、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合ご家族様との話し合いを必ず行っている。そこで本人様とご家族様の意向をしっかりと聞き対応している。また、終末期にはご家族様や地域の方の時間を大切にするため宿泊を許可する場合もあります。	入居時や状態変化があったときに、利用者と家族の意向を確認し、医師を交えてどのような最期を迎えるのが良いのかを検討している。、看取りの勉強会を行い、対応の仕方や看取りとはどのようなことなのかを学び、日常の支援の大切さを振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に関してはマニュアルを作成している、また、年に一回ある勉強会で対応方向について説明させていただいている。日頃も職員が疑問に思っている点を正確に伝え、いざというときにしっかりと対応できるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回消防訓練を行っている。また消防員立ち合いによる訓練を一回行っている。地域の方との連携に関しては2か月に1回行う会議にて話し合いを行い連携をとっている。	避難訓練は消防員に評価をしてもらい、それをもとにマニュアルの見直しを進めている。地域の防災訓練に利用者と一緒に参加して、地域の防災の取り組みを確認した。	災害時には事業所単体での対応には限界があり、法人全体での対応が必要である。今後の検討課題として提案したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外国の職員がおり適切ではない言葉を使うこともありその都度説明と指導を行っている。利用者様によっては敬語を嫌う方もおり失礼でない程度に個別に合わせて対応を行っている。	動作一つ一つに声掛けをして、利用者の意に沿わないケアをしないよう努めている。対応にバラツキが出ないように、不適切ケアについて事業所内の委員会で検討して、ケアの統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行うにあたってまずは本人様に確認を取るようになっている。口で意思を発することができない利用者様に対してはジェスチャー等で相手の気持ちを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の時間の流れは決まっているが、その中で本人様ががつらいで過ごせるように本人様のペースにあわせている。また、要望に関してはその都度対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や目やに、寝ぐせ等の身だしなみに対しては声掛けを行い場合によってはお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立が決まっているので要望にはなかなか応えられない部分がある。準備や方付けに関しては自ら率先して行ってくれる利用者様がおり職員と楽しく行っている。	通常の食事の他に季節の行事などに合わせて行事食を提供することもある。手作りおやつをするときには利用者と一緒に作っている。食器拭きは利用者が率先して行う仕事のひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては委託している会社に任せている。塩分量等に関しては規定があり職員が勝手に変えることはできない。水分や食事の量に関してはしっかりと記録を取り管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	両ユニットに洗面台があり、そちらで口腔ケアを行っている。職員の付き添いにより残差物がないか確認し講習や誤嚥等につながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のその時のその状態で対応を行っている。状態が上がってくるようであれば徐々にレベルを上げ最終的には布パンツにできるように努めている。又オムツのコストを考え尿量に応じてパットを変える等もしている。	尿意のある方には手を貸しすぎない支援をして自立の継続に努めている。個々の状態や本人の意向に合わせて排泄用品を使用している。看護師による肌のチェックも行い、自立が継続できる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便チェックを必ず行っている。便秘気味の方には水分を多く提供したり、下剤の調整を行っている。また排泄しやすいように排泄介助の際はおなかを温めたり圧力をかけたりと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人員数の関係もあり、なかなか希望の時間に入るということができない状態である。しかし、利用者様によって今日が入りたくないという方には無理に行わず曜日を換えたり等の対応を行っている。	週2回の入浴を基本とし、体調が悪い時には清拭で対応している。可能な限り湯船に浸かってもらえるよう、職員が二人介助で対応するときもある。拒否される方には声掛けを工夫して、楽しく入浴してもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によって夜遅くまで起きている方もいればすぐに部屋に戻ってしまう方もいます。特別な理由がない限りは利用者様の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全介護職員には危険である薬は周知を行っています。服薬介助は必ずダブルチェックを行い飲みこぼし等がないよう口腔内が空であることを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の趣味嗜好を把握し好きなことを行えるように支援しております。またマンネリ防止のため季節の行事等を取り入れ気分転換も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務人数によるが普段の場合外へ散歩に行くということではできている。不定期ではあるが近所のスーパー等買い物に出かけることも行っている。	天気の良い日は近隣に散歩へ行き、外に出て気分転換をする機会を作っている。近隣のスーパーでのウインドウショッピングは利用者の楽しみとなっている。車でデンパークや南知多ビーチランドなど遠出の外出も企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によって異なるがご家族様の要望で本人様にお金を持たせない意向の方が多いです。代わりに必要時に使えるように管理者がお預かりしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設からの電話はおこなっていません。家族様からかけて来たときに家族様了承のもと本人様とつなぐ等は行っております。また携帯を所持し携帯から電話をする利用者様もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により施設を飾ったり等の雰囲気づくりには気を使っております。	常に清潔を保つよう、食事の都度、床を掃除している。季節の掲示物などを工夫し、飽きの来ない飾りをしている。職員が作製した神社の鳥居の模型があり、初詣に行けなかった利用者はそこでお参をすることができ好評であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい利用者様に関しては閉じこもりがちにならない程度に配慮している。気の合う利用者様同士がなるべく一緒に過ごせるように席を配置したりで工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	付属されているベッドやタンスを使用される方が多いがご家庭からもちこまれた家具を使用している方もいる。本人さまにあった環境づくりを目指し職員目線にならないよう配慮を行っている。	家族写真や作品などを飾り、それぞれが落ち着ける部屋となるように工夫している。付属のベッドを使用せず、入居前の習慣で布団で寝ている人もいる。職員が毎日掃除しており、常に清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行されている方が多く生活の妨げにならないよう施設内の導線に配慮を行っている。またゴミが落ちてると拾おうとされ転倒するケースもあり床は毎日掃除を数回行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700111		
法人名	医療法人あやめ会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字石浜字笹原28番地の1		
自己評価作成日	令和 元年 1月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2395700111-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として地域のイベントなどに参加し利用者様が住み慣れた町で生き生きと過ごせる環境作りに務めている。特に今年度は法人が主体となり遠足を計画したり地域へ向けての祭りを開催しておりより地域とのかかわりを持てる環境を目指している。また医療面では法人母体のクリニックが徒歩圏内にあることを生かし密に連絡を取ることでより手厚い医療を受けることができる環境を整備している。当事業所としてはご家族様と密接な関係をきづき、利用者様・ご家族様ともに安心して過ごせる施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い徐々に浸透してきている。去年に引き続き職員個々に目標を立て実践してきており成果は個人差はあるものの去年と比べおおむね改善できている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア様に来所していただいたり祭りや店に出かける等交流の機会を増やしている。また学生の職場体験にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は区長様・民生児童委員様等に協力を呼びかけ町にも協力していただき法人として地域交流祭を開催して。交流の場を設け認知症の方に対する理解を求める場を提供できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の実績等を紹介するのはもちろん、地域の方への相互援助の関係を築くための話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設に関する変更事項等の書類提出や施設の実情を書類にまとめ職員へ反映しサービス内容の向上を目指している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束に関して禁止としている。またH30年度の改正により3か月に1度の身体拘束防止委員会として勉強会の実施をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間を通し虐待について勉強会を行っている。又、言葉遣いでの虐待にも視点をおき日々の言葉遣いにも注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度を利用している方がおり、ほとんどの職員はある程度は把握しているが、正確に理解している職員は少ないのが現状であり年に1度は勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については管理者・介護支援専門員から十分な説明を行っている。契約時にはご家族様へ質問事項はないか促し契約後もこちらから不安点・不明点などの有無を確認し相談しやすい環境を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から意見をいただいた際は管理者・介護支援専門員や看護師介護士を交え必要であれば担当者会議を開き対応を行っている。複数あれば優先順位を設け順に行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的には月に一度委員会を開催した際に意見・提案を行う場を設けている。それ以外では連絡帳等の書面を使い情報のやりとりを行えるばを設け情報の収集や発信の場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等を代表者に伝え評価したうえで給与に反映している。労働時間に関しては相手の意見を聞き平等に対応している。職場環境については情報収集を常に行い優先度の高いものから順に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関して一覧表を作成しみんなが観覧できるように掲示している。提案はするものあくまで個人の意思を尊重しながら研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内では月に一回勉強会を開催し意見交換の場として活用している。法人内の他事業所とは不定期ではあるが、講習会を合同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との関係づくりは特に重視しており事前にご家族様や担当のケアマネージャーから既往歴等の情報収集を行ってから本人様と面談し不信感や猜疑心を刺激しないように注意を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を行う前段階で十分に施設とサービス内容を行っている。その際に不安や困っていることに対して慶弔に努め不安な気持ちを解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLが下がったりと日ごろ状態が変わってくる中でケアマネ等との連携をとり、現在行っているサービスと現状の状態を比較し適した対応を考えご家族様に提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	排泄介助、入浴介助、食事介助のみではなく、和気あいあいとした環境を作っている。利用者様自身がこちらに寄り添ってくださる環境作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時、在宅時の生活の聞き取りを行いご家族様と一緒に方針を決め自宅と過ごし方の差が少なくなるように努めている。その後の経過も密に伝えご家族様も一緒にサポートできる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に相談し、なじみのある習慣や外出レク等でなじみの場所へ訪れる等は行っている。また友人等の面会もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりで性格が違うが自立されている方同士での交流できるように配慮している。一方で介助が必要な方にはなるべく職員が間に入り利用者同士の交流の手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的にはこちらからは連絡することはなるべく避けている。本人様が心配なく次の場所へ行けるようにケアマネを中心として相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの希望に関してはなるべく聞くようにはしている。本人様がくらしやすい環境を作るように心かけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分で意思表示ができない方に関しては今までの生い立ちや性格を考え本人様が暮らしやすい安心できる環境作りに務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様によって過ごし方が違う本人様が穏やかに暮らしていただくために生活リズムをその方に合わせている。タイムスケジュールの中での活動についてはADL等を考え体操やレクの参加をうながすことはある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態を考えうえで、ケアマネのみではなく職員全体で情報を収集し、また、ご家族様の意見も反映を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを用いて記録を行っている。日々の様子については実際に職員が閲覧できるようになっており情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスのみではなく、その都度対応できるサービスを利用者様、ご家族様を中心に話し合い新しいサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのつながりをもつため地域行事に関しては年に何回か参加させていただ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の方に顔をさせていただくことで救急時に対応できたり、利用者様も地域と触れあることで心が安定した状態になるのではないかと考えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの目では差がありますが、介護職員しか見れない視点での気づきはあると思うので変化があった場合は看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の共有はもちろん、月に2回以上の面会を行っている。面会以外に病院先に連絡を取り、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合ご家族様との話し合いを必ず行っている。そこで本人様とご家族様の意向をしっかりと聞き対応している。また、終末期にはご家族様や地域の方の時間を大切にするため宿泊を許可する場合もあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に関してはマニュアルを作成している、また、年に一回ある勉強会で対応方向について説明させていただいている。日頃も職員が疑問に思っている点を正確に伝え、いざというときにしっかりと対応できるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回消防訓練を行っている。また消防員立ち合いによる訓練を一回行っている。地域の方との連携に関しては2か月に1回行う会議にて話し合いを行い連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外国の職員がおり適切ではない言葉を使うこともありその都度説明と指導を行っている。利用者様によっては敬語を嫌う方もおり失礼でない程度に個別に合わせて対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行うにあたってまずは本人様に確認を取るようになっている。口で意思を発することができない利用者様に対してはジェスチャー等で相手の気持ちを確かめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の時間の流れは決まっているが、その中で本人様ががつらいで過ごせるように本人様のペースにあわせている。また、要望に関してはその都度対応できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や目やに、寝ぐせ等の身だしなみに対しては声掛けを行い場合によってはお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立が決まっているので要望にはなかなか応えられない部分がある。準備や方付けに関しては自ら率先して行ってくださる利用者様がおり職員と楽しく行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては委託している会社に任せている。塩分量等に関しては規定があり職員が勝手に変えることはできない。水分や食事の量に関してはしっかりと記録を取り管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	両ユニットに洗面台があり、そちらで口腔ケアを行っている。職員の付き添いにより残差物がないか確認し講習や誤嚥等につながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のその時のその状態で対応を行っている。状態が上がってくるようであれば徐々にレベルを上げ最終的には布パンツにできるように努めている。又オムツのコストを考え尿量に応じてパットを変える等もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便チェックを必ず行っている。便秘気味の方には水分を多く提供したり、下剤の調整を行っている。また排泄しやすいように排泄介助の際はおなかを温めたり圧力をかけたりと対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人員数の関係もあり、なかなか希望の時間に入るということができない状態である。しかし、利用者様によって今日は入りたくないという方には無理に行わず曜日を変えたり等の対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によって夜遅くまで起きている方もいればすぐに部屋に戻ってしまう方もいます。特別な理由がない限りは利用者様の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全介護職員には危険である薬は周知を行っています。服薬介助は必ずダブルチェックを行い飲みこぼし等がないよう口腔内が空であることを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の趣味嗜好を把握し好きなことを行えるように支援しております。またマンネリ防止のため季節の行事等を取り入れ気分転換も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務人数によるが普段の場合外へ散歩に行くことはできている。不定期ではあるが近所のスーパー等に買い物に出かけることも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によって異なるがご家族様の要望で本人様にお金を持たせない意向の方が多いです。代わりに必要時に使えるように管理者がお預かりしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設からの電話はおこなっていません。家族様からかけて来たときに家族様了承のもと本人様とつなぐ等は行っております。また携帯を所持し携帯から電話をする利用者様もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により施設を飾ったり等の雰囲気づくりには気を使っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい利用者様に関しては閉じこもりがちにならない程度に配慮している。気の合う利用者様同士がなるべく一緒に過ごせるように席を配置したりで工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	付属されているベッドやタンスを使用される方が多いがご家庭からもちこまれた家具を使用している方もいる。本人さまにあった環境づくりを目指し職員目線にならないよう配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行されている方が多く生活の妨げにならないよう施設内の導線に配慮を行っている。またゴミが落ちてると拾おうとされ転倒するケースもあり床は毎日掃除を数回行っている。		